

富士精工グループ

中期経営計画

2023年度 — 2025年度



富士精工株式会社

目次

2023年度版中期経営計画について
トップビジョン

2022年度中期経営計画の振り返り
当社グループを取り巻く外部環境
長期テーマ

事業戦略

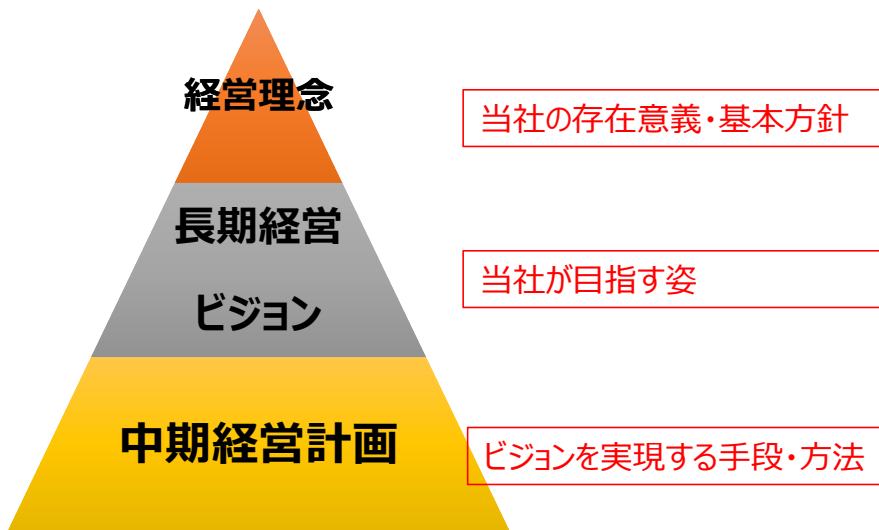
1. 経営資源の最適配分
2. 「FUJI Total Connected-max Engineering Company」
事業戦略事例 概要
事業戦略事例 売上概要
事業戦略事例 事例(1)~(5)
3. 「C-MaX循環企業」への進化
4. 働く環境づくりと人材開発

財務目標まとめ（連結業績）

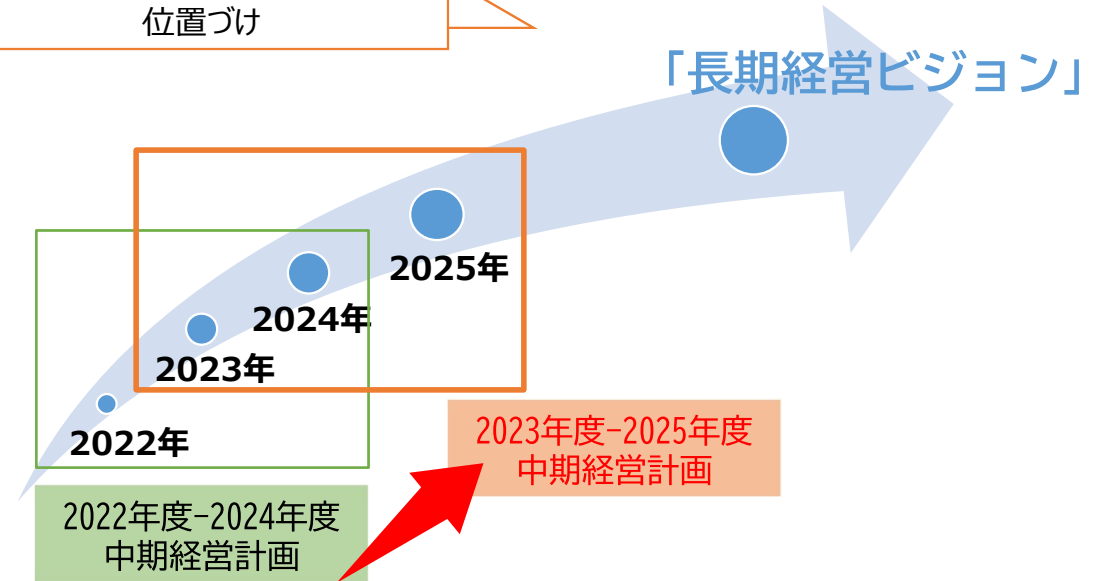
2023年度版中期経営計画について

大きく変化していく外部環境に対し、当社グループの長期経営ビジョンを明確にし、中期スパンで取組テーマと事業戦略を掲げ、その達成を目指します
 なお、2022年度－2024年度計画は、その達成度や戦略の進捗を精査し、その結果を踏まえて、新たに2023年度－2025年度のローリング値を公開いたします

中期経営計画の体系図



2023年度版中期経営計画の位置づけ



守り続けるものは「創業の心」であり、理念なくして成長はありません

経営理念

「誠実」
「高品質」
「顧客第一」

経営基本方針

1. 社会への奉仕
2. 顧客への奉仕
3. 技術開発
4. 個人能力の開発
5. 職場の和

富士精工DNA

夢とロマンを掲げ、
その実現に向けて果敢に
チャレンジ。
これを通じて、ステークホルダーを笑顔にする。

長期経営ビジョン

Good Company

2030年までに、当社に関わるすべての人にとって価値ある会社、信頼感ある会社になる

2022年度中期経営計画の振り返り

中期経営計画2022年度版をローリングして2023-2025年度版を作成するにあたり、2022年度の評価を実施いたしました

	2022年度 目標値	2022年度 実績値	差異
売上高（連結値）	220億円	197億円	目標値▲23億円
営業利益率（連結値）	3.5%	0.3%	目標値▲3.2ポイント
配当金	50円	50円	目標どおり実施
R O E（自己資本利益率）（連結値）	3.2%	0.9%	目標値▲2.3ポイント

売上高、営業利益率、R O Eにつきましては、主要顧客である自動車産業界において半導体不足や新型コロナウイルス感染症の拡大により自動車生産の回復が遅れたことから受注が不調であったこと、また、原材料や光熱費の上昇が利益を圧迫したことなどから、それぞれ予想値を下回りました。

当社グループを取り巻く外部環境

大きく変化する外部環境に対応すべく取り組みを進めてまいります

自動車を取りまくグローバル市場の動向

- ◆自動車の電動化促進
- ◆技術開発の軸足が内燃機関から電動モーター、バッテリーへ移行

カーボンニュートラルの実現

- ◆グローバル視点で地球温暖化への対応が喫緊の課題
- ◆企業にとってはカーボンニュートラルへの挑戦が次の成長の原動力につながる

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ◆データとデジタル技術を活用して、製品・サービス・ビジネスモデルを変革
- ◆IoT、ロボット技術、自動化などものづくり現場変革

サステナビリティ（中長期的な持続可能性）を巡る企業責任

- ◆企業の中核人材における多様化（ダイバーシティ）の確保
- ◆ESGを重視した企業活動

労働環境の継続的改善（働き方改革）

- ◆労働者が働きがいを感じて仕事をする環境づくり
- ◆ワークライフバランスの実現や性別による格差、労働環境の改善など様々な労働環境問題への対策

長期テーマ

長期経営ビジョン「Good Company」を目指すにあたって、今の時代において考慮すべき視点を長期テーマとして掲げます

長期経営ビジョン 「Good Company」

- ◆ 「従業員が自己の成長・生活の安定を実感でき、定年時に長い間勤めてよかったと思える会社」
(従業員よし)
- ◆ 「モビリティ産業界の課題を解決する特長的な製品やサービスを生み出す活力ある会社」
(顧客よし、仕入先よし)
- ◆ 「投資と収益のバランスが取れ、安定的な利益を創出する強い財務体質の会社」
(株主よし、投資家よし)
- ◆ 「経営資源や創出した利益を活用して、地域の人々が抱える課題を解決する社会貢献型の会社」
(社会よし)

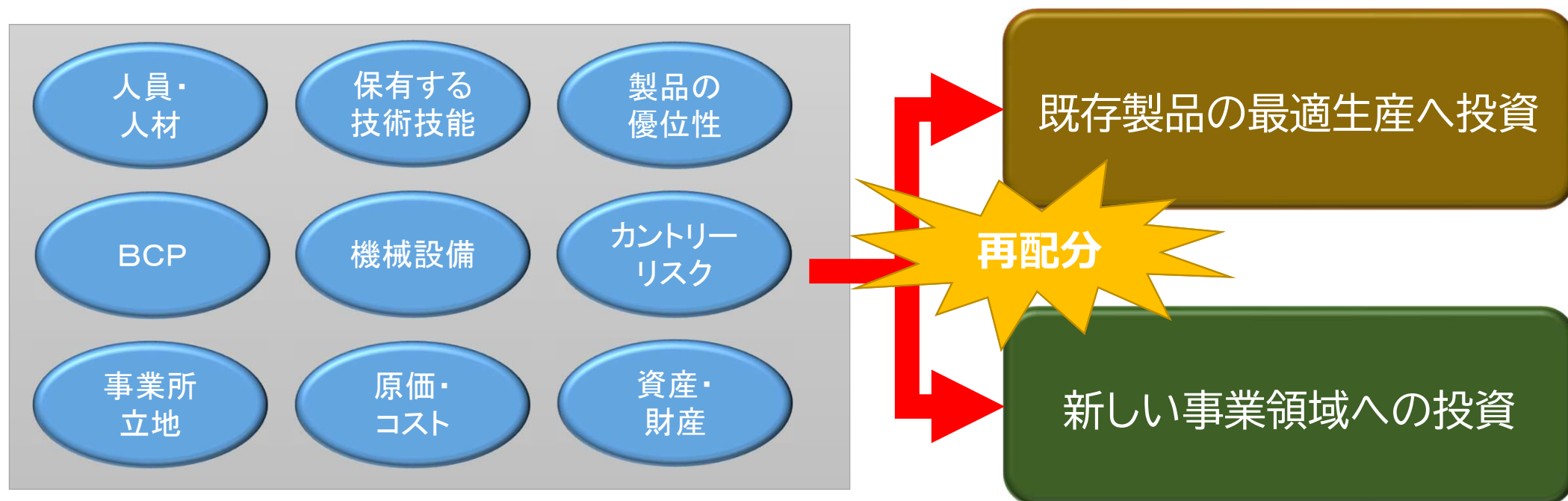
長期テーマ

- 「人材開発」
従業員の活躍こそが会社の活動を支えるものであり、従業員が活力をもって働ける「環境づくり」と「人材開発」をおこなう
- 「積極的な事業戦略」
お客様のものづくり現場の困りごとを解決する企業であり続けるために、新しい技術獲得・製品開発に取り組む
- 「財務体質の強化」
新しい時代に生き残るために積極的な企業活動を行うため、その源泉として必要な利益創出を図る
- 「カーボンニュートラルへの挑戦」
環境貢献を意識した製品、サービス、ビジネスモデルづくりをすすめる

事業戦略 1. 経営資源の最適配分

既存製品・技術は温存しつつも、新しい時代に生き残るための技術獲得や製品開発が必要不可欠であり、今ある経営資源の配分を見直し、採算性を考慮しつつ事業の最適化・新しい事業領域への進出を目指してまいります

財務体質の強化と未来への再配分



事業戦略 2. 「FUJI Total Connected-max Engineering Company」



当社は、「ものづくり現場の困りごと解決企業」としてお客様との結びつきを大事にし、これからも、職人の志で技と匠を産み出し、お客様のものづくりの生産性を最大限に引き出す企業であり続けます。

以下の事業領域でお客様のものづくりのお役に立つことを目指しています

工具事業	設備事業	商社事業	プラットフォーム事業	試作部品製造事業	海外事業
特殊ツーリング 特殊切削工具 電動車用工具	設備/装置 システムアップ作業 搬送機器 高機能治具 自動化/無人化装置 ロボット/FA システムインテグレータ 専用ロボットモジュール	工具・設備商材 エンジニアリング	工場現場のコストマネジメント トレサビリティ作業 コンシェルジュ業務 仕組み開発 業務の標準化	試作コーディネータ 多品種少量部品生産 加工ラインの実証	各国の地域事情や 市場環境に合わせた 提案・協業活動

事業戦略事例 概要



富士精工は、

高品質 高性能 高付加価値の多種多様な少量生産製品を製造してきました。

富士精工製品は、少量多品種生産の困りごとを解決します。

お客様のニーズが多様化したいまの時代だからこそ私どもの活躍の機会が拡大してきています。

富士精工は、

お客様の困りごとを現場から直接聞いて、自社で設計製作してお客様の生産効率向上を追究していきます。

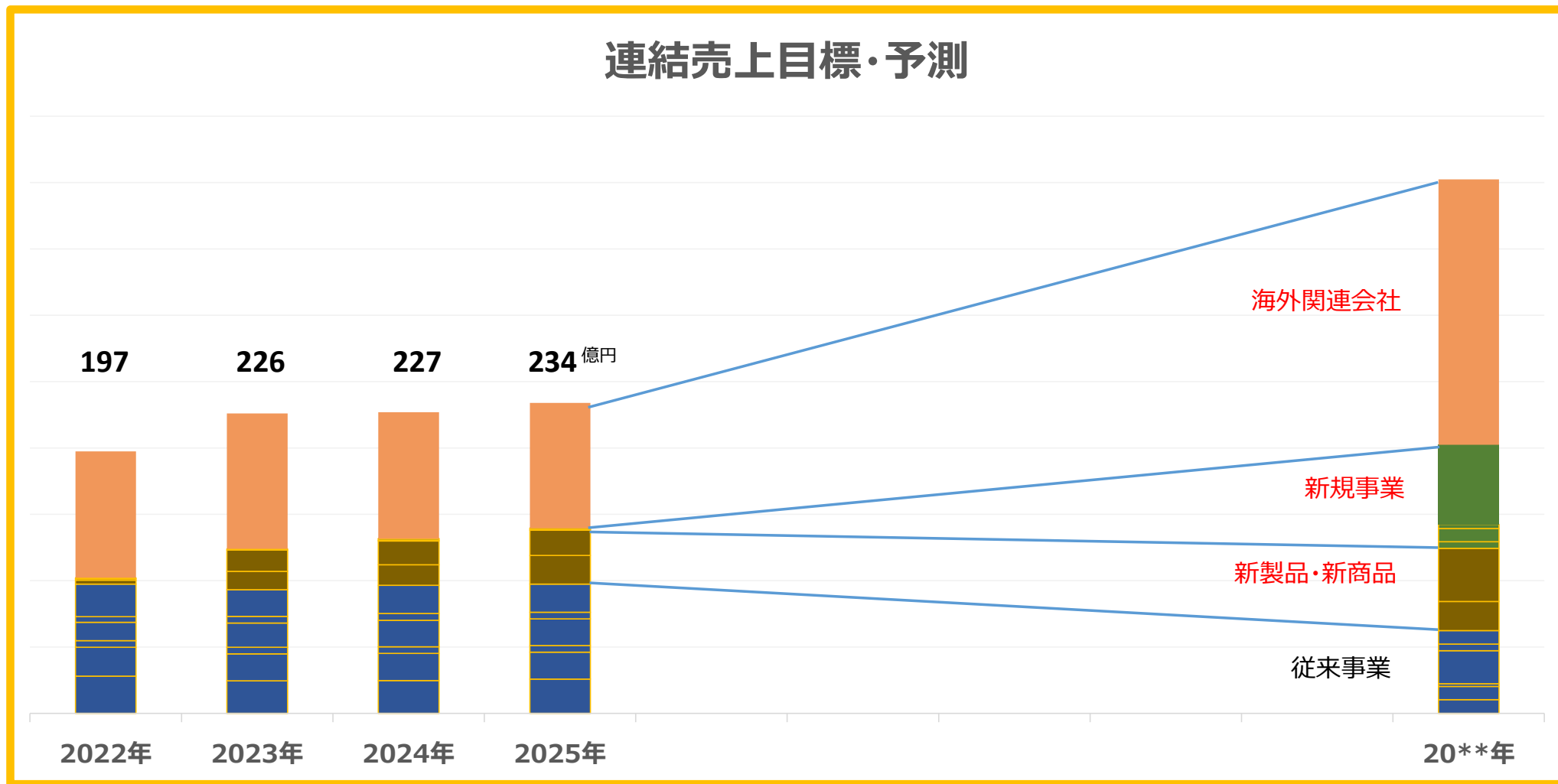
【FTEからFTCEへ】

FTE (FUJI Total Engineering) からFTCE (FUJI Total Connected-max Engineering)へ進化

多様なニーズ、テクノロジー、データ、ものづくりを富士精工のソリューションでつなぎ合わせて、お客様の価値を創造し最大化していきます。



事業戦略事例 売上概要



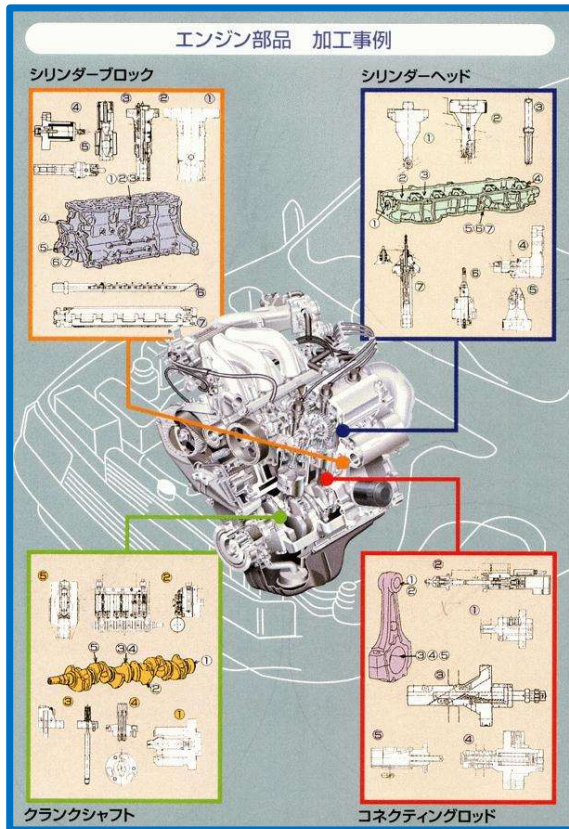
事業戦略 事例(1)

工具事業

【自社独自の設計製作】

高品質・高精度・高能率・即段替え・自動補正・工程集約

加工時間短縮・設備治具削減・特殊ツーリング・特殊消耗工具・電動車用工具/修理再研磨



G-oneホーリングホルダ



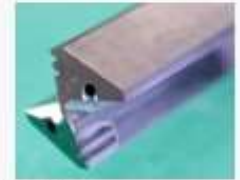
当社7ミミ発射ホーリングのマルチ刃設計。高回転速度を見据えた工具思想により高能率加工に貢献。

マテハンホルダ



低コストで設備内搬送やワーク姿勢変更を実現。作業者の負担減・サイクルタイム短縮だけでなく工場内の省人化に寄与。

バラバラドリル



独自の溝形状による切り屑細分化を実現。ワーク、治具への残留問題に一躍を担う。今までの切り屑問題を解決。

QTツール



加工機内に簡易的なアジャストブロックを設置するだけで刃先寸法の自動補正が可能な仕上加工用Boホルダ。



巻線切断用ニッパ



モーター巻線切断用工具。高寿命を実現する超硬刃ろう付け式。コスト低減を実現する刃先交換式をラインナップ。

ものづくり: 自動化推進/24H無人稼働ラインを運用開始/新製品開発を増強

電動車用治工具も最新開発

事業戦略 事例(2)

設備事業

【生産企画】

生産ラインの企画・構想設計から F T Kフルターンキー受注まで
 構想設計⇒工程設計⇒設備選定⇒治具設計⇒装置設計⇒ツールング設計

【FTCE/FTK】

機械加工・製作組立・デバック・電気制御設計・FAロボットシステム開発
 設備改良・装置開発・治具開発
 オーバーホール・レトロフィット・保全

ロボットツールング



3Dプリンタを用いた協働ロボット用
 ハンドツール。加工方法に適したオリ
 ジナルハンドで自動化・省人化を実現。

インサート交換機



搭載されたカメラでホルダを画像認識
 し、使用済みインサートを新品イン
 サートに自動で交換。

マンドレル



リング形状製品の測定や加工時のチャック
 に利用。コレットを活用した多品種対
 応が魅力。

SIGA
 SINCE 1946



子会社：志賀機械工業との協業

事業戦略 事例(3)

商社事業

【付加価値】

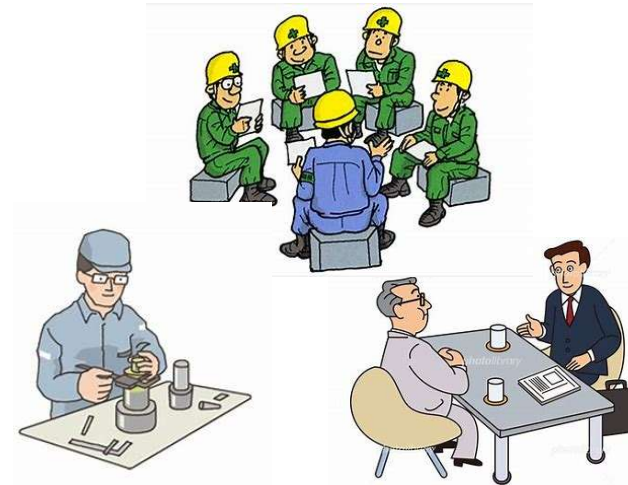
加工点を出発点に、富士精工のエンジニアリングを活用してメーカー商品の機能を引出し最適加工能率を探索する

【生産工場のよろず屋】

切削工具・ホルダー・治具・搬送・装置・油脂・機械・F A 関連・設備常備品・工場用度品・測定機器

【トータルエンジニアリングコーディネート】

富士精工特殊ツールング + 標準工具（メーカー商品） + 改善エンジニアリング + 機械・治具



様々なアイテムを取り扱い、「困りごと解決営業マン」を目指します

事業戦略 事例(4)

試作部品製造事業

【試作部品のワンストップサービス】

製作に必要な工程を一貫製作。CAD設計/材料の調達/加工/組み立て/検査までを、迅速かつ高品質に対応します。

【利用シーン】

製品開発/製品改良/研究開発/量産開始前の準備部品/試作部品の改修・改良



機械加工部品

樹脂成形（試作金型～量産金型まで）

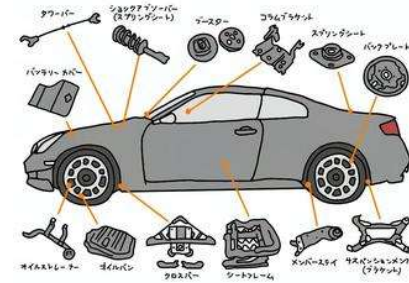


【ワーク事例】

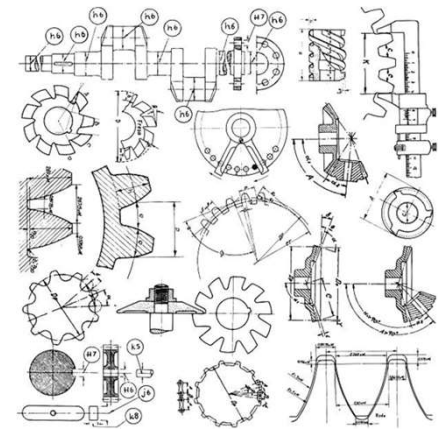
樹脂成型部品



3Dプリンタ部品



自動車部品



工程設計/設計製作



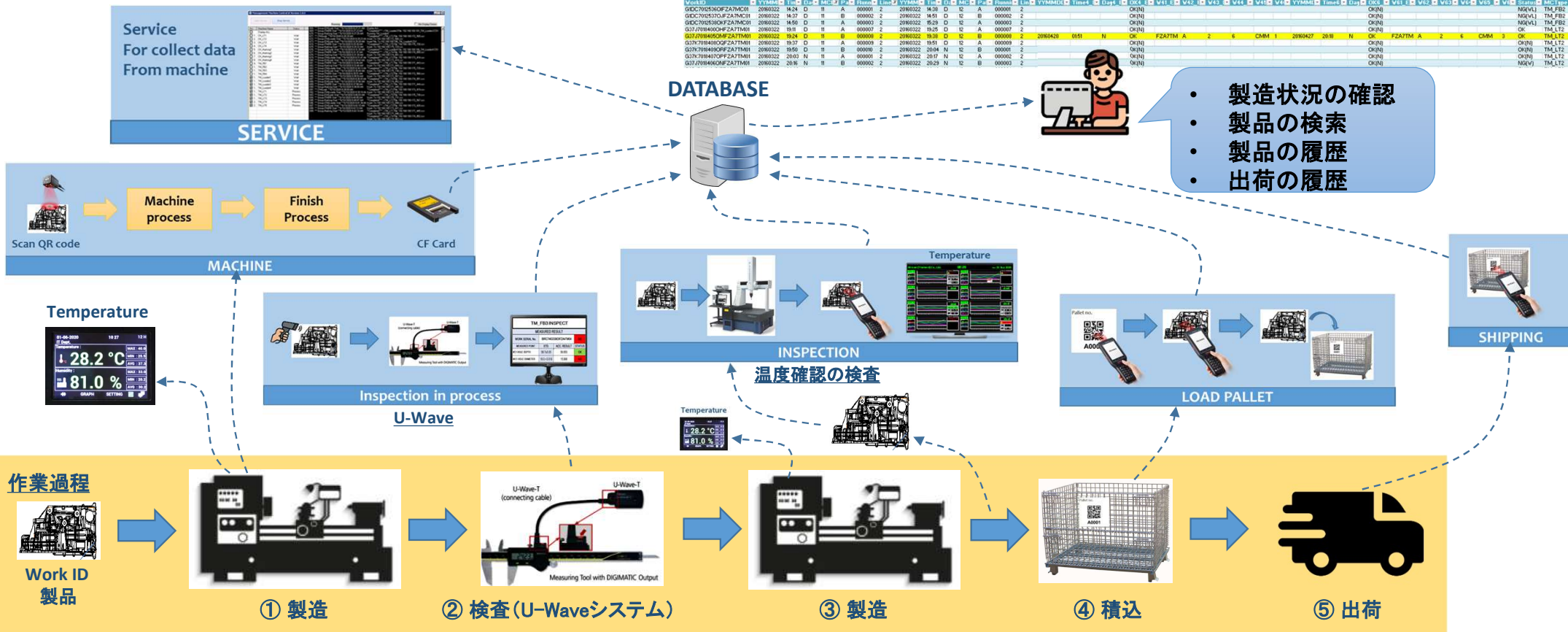
事業戦略 事例(5)

プラットフォーム事業

【生産工場の可視化】
業務運営ソリューションを設計制作します

製品の履歴

WorkID	OP100				OP110				CMM1								CMM3				STATUS	Type												
	YMM	Lot	MC	Flt	YMM	Lot	MC	Flt	Lot	Lot	Lot	Lot	Lot	Lot	Lot	Lot	Lot	Lot	Lot	Lot														
GDC70RS5KOFZATM01	20160322	M-24	D	A	000001	2	20160322	M-28	D	A	000001	2	OK(N)	OK(N)	V41	V42	V43	V44	V45	V46	V47	V48	V49	V50	TM_FB2	MR(VL)	TM_FB2							
GDC70RS5KOFZATM031	20160322	M-27	D	B	000002	2	20160322	M-31	D	B	000002	2	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	TM_FB2	MR(VL)						
GDC70RS5KOFZATM031	20160322	M-50	D	A	000003	2	20160322	M-23	D	A	000003	2	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	TM_FB2	MR(VL)						
G177018460HFZATM01	20160322	M-31	D	A	000007	2	20160322	M-25	D	A	000007	2	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	TM_L12	MR(V)						
G177018460HFZATM01	20160322	M-24	D	B	000006	2	20160322	M-30	D	B	000006	2	20160428	0501	N	OK	FZATM	A	2	6	CMM	1	20160427	2016	N	OK	FZATM	A	2	6	CMM	3	OK	TM_L12
G177018460HFZATM01	20160322	M-37	D	A	000009	2	20160322	M-31	D	A	000009	2	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	TM_L12	MR(V)	TM_L12					
G177018460HFZATM01	20160322	M-36	D	B	000010	2	20160322	M-34	D	B	000010	2	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	TM_L12	MR(V)	TM_L12					
G177018460HFZATM01	20160322	M-33	D	A	000001	2	20160322	M-17	D	A	000001	2	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	TM_L12	MR(V)	TM_L12					
G177018460HFZATM01	20160322	M-39	N	B	000002	2	20160322	M-29	D	B	000002	2	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	OK(N)	TM_L12	MR(V)	TM_L12					



事業戦略 事例(6)

海外事業

各海外拠点の役割と取扱ビジネス



ポーランド：サービス拠点/再研磨
ハンガリー：サービス拠点



中国：生産拠点（大連/広州/長春）/
トータルツールング/再研磨



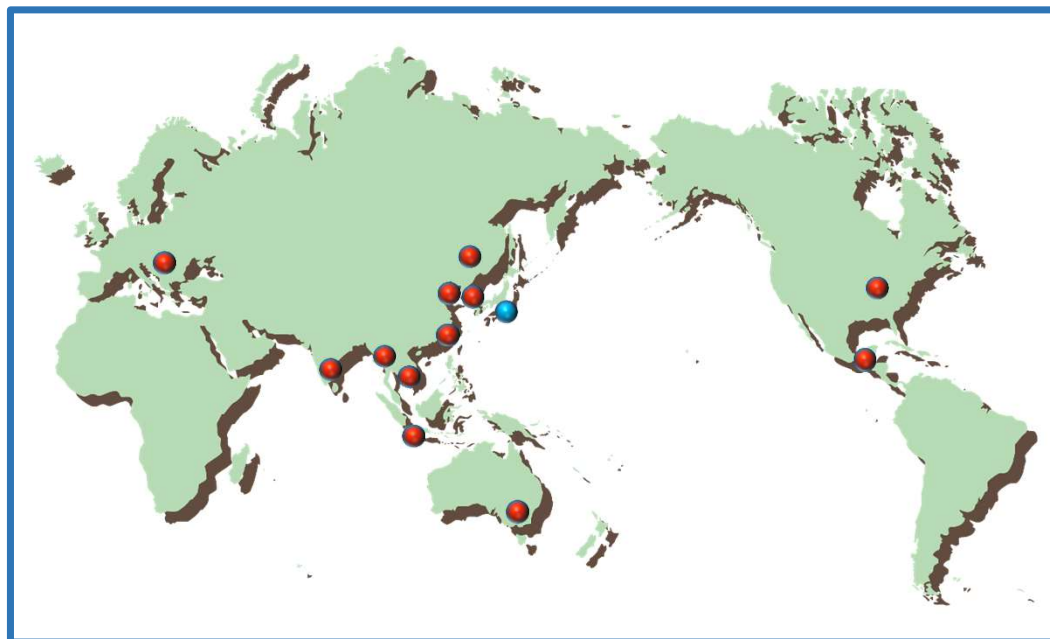
タイ：生産拠点/消耗工具/再研磨/設備・治具/TMS※
ベトナム：サービス拠点



インド：サービス拠点/再研磨/TMS※



韓国：生産拠点/トータルツールング/再研磨



アメリカ：サービス拠点/再研磨



メキシコ：サービス拠点/
再研磨/TMS※



オーストラリア：生産拠点/
建築資材/梱包資材



インドネシア：生産拠点/
消耗工具/再研磨

※TMS：ツールマネジメントソリューション（工具および生産効率向上を運営するソリューション）

事業戦略 3. 「C-MaX循環企業」への進化

企業コンセプト「C-max」に新たな意味づけを行い、新しい事業へのキーワードとしてサステナビリティ（持続可能な成長）の実現を目指してまいります

C-MaX = Circular-Management Transformation

サーキュラーエコノミー型ビジネスモデルを目指し、新しいサービスをつくりだす

当社は時代の流れに合わせて省資源・環境配慮を事業コンセプトに加えてまいりました
これからも環境に配慮した事業展開・製品開発を行ってまいります

スローアウェイ工具事業



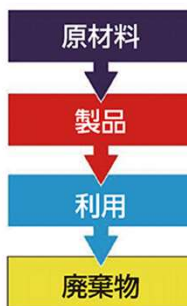
5 R 事業

Reuse (転用・改造) の事例



C-MaX 循環事業

リニアエコノミー (線型経済)



サーキュラーエコノミー (循環経済)



参考：環境省HP

事業戦略 4. 働く環境づくりと人材開発

長期ビジョン達成のためには従業員の活力ある行動が必要であり、個人の能力アップ、新たな人材の確保を図り、充実した働く環境づくりを進めてまいります

当社は、従業員の活躍こそが企業活動を支えるものであり、従業員は家族という考えのもと、人材育成、教育活動などを積極的に行ってまいりました



従業員各人の能力アップと新たな人材の確保は今までも増して重要な経営課題です



従業員の個々の能力や経験値を高め、その知識や技能をもって企業活動に貢献できる人材が長く働くことができる環境づくり



働き甲斐を感じられるようなインセンティブ制度、自己の成長や将来を見通すことのできる人材育成ロードマップの提示など、人事・賃金・評価制度の改革実施

財務目標まとめ（連結業績）

企業グループのシナジーを活かして連結業績の向上を目指します

営業利益率

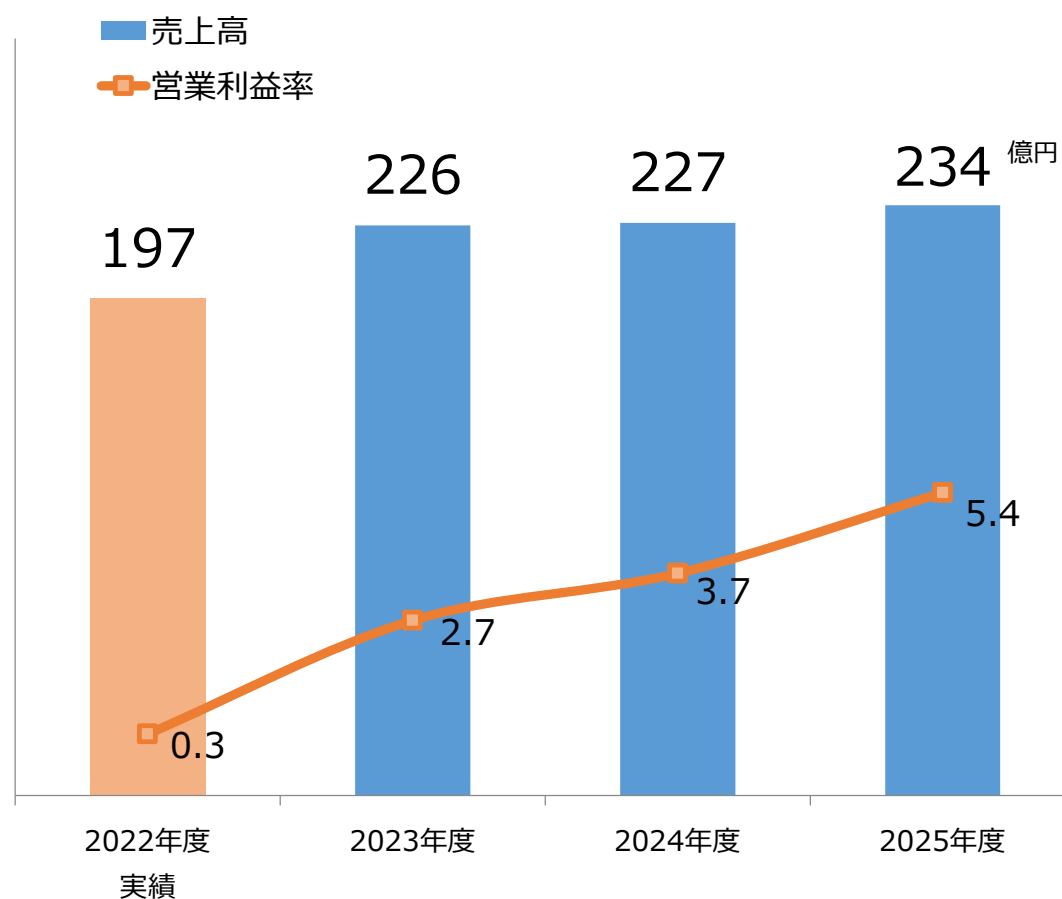
2023年度	2024年度	2025年度
2.7%	3.7%	5.4%

配当

2023年度	2024年度	2025年度
50円	60円	70円

ROE

2023年度	2024年度	2025年度
2.7%	3.5%	4.5%



本資料に掲載されている将来の予想等に関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき当社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

したがって、実際の業績は様々な要因により、これら業績予想とは異なる結果となる可能性があります。

